

## 【問1】

第六学年ともなると、自分の意志で物事を考えて行動できるようになる。今回、一人で遊ぶのが好きであるという児童の意志も尊重しつつ、仲間外れやいじめに繋がる可能性も頭に入れ、以下のような対応を行う。

まず、教師がこの児童と一緒に遊ぶことである。その児童が発見した遊びの楽しさなど話を聴き、共感するように接する。児童が心を開くまでは、極力教師が友だちになるよう努める。それができたら、この児童の良さを学級内で話題し、輪が広がっていくことを狙う。

次に、学級イベントやクラス遊びを積極的に行うことである。一人が好きで児童も、友人と関わる機会を通して交友関係を広げていくことを狙う。班や係内で意見を交わしたり、一緒に遊ぶことで、その楽しさを感じることができれば、新しい人間関係を築いていけると考える。支援するとともに、もしも、いじめに繋がるような態度が見られた場合厳しく指導する考えである。

以上の対応を行うが、児童の精神的負担にならないように児童理解を欠かさずに行いたい。その上で、たくさんの交流の機会をつくり、寂しそうにしている人がいたら声をかけあえるような学級づくりをしていきたい。

## 【2】

近年、人間関係に悩む児童生徒が多いことが文部科学省の調査からも問題となっている。核家族化や都市化で祖父母や近所の人など両親以外に子どもを見る人が減っていることを背景に、人との接する機会が減っていることが原因の一つとして指摘されている。人との関わりが減る中、集団生活を行う学校の役割はますます重要になっている。私は、児童の豊かな人間関係の育成を図るため、以下について取り組んでいく。

←△児童の意思を尊重しながら児童にとって不利益な状況になる可能性についても想像できている、適切な視点です。ただ、第2段落以降に繋げるためにも、ここで仲間と一緒に遊ぶことの意義も指摘しておくことで一段と説得力が増します。

←○第2段落では順を追って児童がみんななどの遊びの楽しさに気付けるように配慮がなされています。

←×「たり」の用法に注意。「今日は歩いたり走ったりして疲れた」のように2度重ねる場合に使うのが本来の用法。この場合は「班や係内で意見を交わしたり、一緒に遊んだりすることで」としなければならない。

○児童の「気づき」を引き出す方法であり、適切な考え方といえます。

←△過度の配慮が児童の負担にならないよう考えられていますが、具体的にどんな配慮をしていくのでしょうか、その点にまで踏み込んでください。

○←冒頭で客観的な社会情勢について指摘できています。具体的な数値を提示できればなお良いです

←△やや不自然な表現。修正例) 人と接する  
←○人と接する機会が減るなかで、学校での集団生活の重要性がうまく指摘できています。